1　自己評価及び外部評価票

【 事業所概要（事業所記入） 】

事業所番号	2070200411		
法人名	医療法人　心泉会		
事業所名	グループホームローズガーデン		
所在地	松本市大字中山7494－8		
自己評価作成日	平成26年10月31日	評価結果市町村受理日	平成27年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2070200411-00&PrefCd=20&VersionCd=022

【 評価機関概要（評価機関記入） 】

評価機関名	有限会社　エフワイエル
所在地	松本市蟻ケ崎台24－3
訪問調査日	平成26年12月25日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入） 】

・介護老人保健施設の併設型のグループホームとしてのメリットを最大限に活かすこと
・併設の介護老人保健施設の医療面のバックアップ体制による安心機能。
・併設施設の設備の利用や職員の協力により、バリエーションを広げた生活環境の構築。
・恵まれた自然環境の下で、四季の移り変りを感じながら、仲間と生活する喜びを感じていただくこと。
・地域の皆さんとの交流や訪問していただく方々との親睦を深めること。
・グループホームの理念を実践していくこと。

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入） 】

自然に囲まれたホームを訪れると、整理整頓された明るい環境と小ざっぱりとお洒落をした利用者の穏やかな表情が印象的である。「笑顔と思いやり」の理念通り、尊厳を重んじた職員の優しい対応が、安心と心地よさを与えているからであろう。
また、利用者を中心にした生活を楽しみたいという職員の願いが、利用者と職員・利用者同士・そして二匹のセラピー犬がお互いを認め合い思いやる姿に表れている。
そして、併設施設との交流・協働や母体の医療機関のバックアップは、利用者・家族にとっては何より心強いものとなっている。この開所から14年の歳月を経た利用者・家族・地域との繋がりや信頼関係、認知症ケアのノウハウの蓄積が益々強まり・高まる事が期待される事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名（　　）

	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない

	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（11,12）	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況（太枠囲み部分）」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	暖かく思いやりを意識し、家庭的な雰囲気になるようゆったり接し、笑顔で接することを心掛けています。	「笑顔と思いやりで、家庭的な雰囲気を」の理念について、その意義とどのように具体化するのかが話し合われ、礼節を重んじた統一したケアの実施に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	中山地区の敬老会に参加させていただきました。内田福祉広場に行き、喫茶に参加したり、広場まつりにいき、地域とのつながりがもてるようにしています。	近所の方からの松飾や野菜の差し入れ、除雪の手伝いなど、日常的な付き合いとともに、地域の催しへの参加、園児・小中学生との交流や職場体験、地域ボランティアの訪問など、地域との関わりが重視され実施されている。 このような開放的なホーム運営によって、利用者の社会性が可能な限り維持されている。	開所14年を迎えるに当たり、地域に住む高齢者やその家族に向けての関係作りを計画中と聞く。地域貢献の新たな取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	中山地区の認知症サポーター養成講座に参加させて頂き、認知症についての話や、グループホームで取り組んでいること等を話し、地域貢献への取り組みとして行う機会がもてました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議において、認知症やグループホームの説明を行い、日々の利用者様の様子を話し、今後も普段行っていることをことを取り上げ、委員の方々から意見をいただきたいと思います。	会議では事業所の状況や取り組みの報告とともに、参加者から有事の際の共働など、前進的な意見・要望を受けて事業所の質の向上へとつなげている。 また、「グループホームについて」「認知症とは」の学習を会議のなかで実施するなど、事業所の理解を深める努力もしており、協力の得やすい環境作りに努めている。	会議の活性化は双方向の意見交換が必要と理解する。また、意見やアンケートの協力者はその後のアクションや結果を知りたいものである。利用状況だけでなく、自己評価及び外部評価を活用するなどして、更に参画意識を増す工夫などは必要と思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターとは、運営推進会議にて意見交換をして、連携を保てるようにしています。	各参加者とは日常的に相談できる関係とともに、地域での認知症サポーター養成講座での協力依頼を受けたり、地域ボランティアの紹介を受けるなど、お互いに地域福祉の推進に向けての共働関係が構築されている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っていません。身体拘束についての研修会は行い、職員が意識できるよう勉強しています。	身体拘束排除宣言の下に全職員が研修で十分な理解と周知の徹底を図り、人権を尊重した対応と自由な暮らしを支援している。	利用者一人ひとりの予測されるリスクについての検討の際に、身体拘束排除の意識を盛り込む工夫などは期待したいところである。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	法人や施設内で研修会や勉強会を行っています。職員間でも日々のカンファレンスを通じ防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会が持てていませんが、今後研修会に参加し、報告を行ったりして勉強していきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関しては、事務部門で行うようになっています。内容の疑問等についてはその都度スタッフが説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会への積極的な取り組みは行えていないので、今後取り組める努力をしていきたいです。 家族の面会時は現状を伝えるとともに、要望等聞けるように努めています。	家族が来所の際は本人のホームでの生活を報告しながら、家族の想いや要望を聞く機会と捉えている。そして、利用者との会話や様子を「ご家族連絡ノート」に記載して面会時に説明をするなどしており、面会の少ないご家族にとっては安心となっている。 また、必要な内容に付いてはミーティングで話し合うなどして、ケアに反映する努力も視られる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	併設施設との定例会議や、グループホームでのミーティングにおいて検討されている。	ミーティングや会議のなかで職員から出された意見・提案・気づきを基に、サービスへの改善へと繋げたり、勤務体制の見直しで働きやすくするなど、具体的な取り組みが確認できる。 また、年2回の人事考課の実施においては、個々の目標・希望を明確にすることで、職員のモチベーションの向上や人材育成に活用もしている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人において新たな人事評価制度を構築中であり、職員全員で協力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人の方針として、個人のスキルアップのための研修計画や各種資格取得への応援態勢を整備しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	松本圏域のグループホームの定例研修会への参加や、長野県の同業者のネットワークに加盟しており、積極的に参加しています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居の際は、ご本人様と十分に話し合いを行い、どのように生活を営みたいのかをお聞きして、希望に沿えるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居の際には、ご家族とも十分な話し合いを行い、グループホームでの生活について、ご本人の希望や不安などを検討しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族との話し合いの中で、細目に対応できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食事の準備、おやつ作りを一緒に行ったり、談話の時間を設け、コミュニケーションを図りながら仲間としての関係を築いています。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ケアプランの見直しをご家族とともに行いながら、常に同じ立場でご本人のことを考えるような関係を築くことを心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	松本美術館に行き、なじみのある場所へ行くことで、大変感動していました。松本周辺のドライブや自宅周辺に行くことで、安心されており、今後も継続していきたいです。	松本城・美術館・松本空港などの希望の場所へのドライブや、馴染みのお店での買い物など、社会との繋がりを重視している実践が確認できる。 また、馴染みの人との面会や手紙のやり取り、自宅周辺へのドライブなど、個別的な支援も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりの個性を尊重し、大切にすることで、利用者同士のトラブルに配慮しながら、協調していく関係作りを目指しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居された後でも、必要に応じ相談や助言を行っています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、どのように生活をしていきたいのか、どんなことをしたいのか、コミニュケーションの中から汲み取れるように努力しています。	共に生活をする中で、本人の思いや暮らし方について、丁寧に聴く時間を大切にしている。 また、家族を交えて話し合い、本人にとって住み心地の良い家となるような情報収集にも努めている。	状態の進行があっても本人らしい暮らしが続けられるよう、定期的、且つ、状況に応じた意向把握が今後も継続して行く事が期待される。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時のご家族との話し合いやご本人様との会話の中から、これまでの様々な情報についての把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員一人一人が日々の様子を観察することで、現状の把握に努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	関係する部署や以前の様子を知っている方からの情報、またご家族からの意見を取り入れて、スタッフ全員で介護計画を作成しています。	本人がどのように暮らしていきたいかを基に、関係職種を含めた職員で計画を作成し、家族に分かり易く説明している。 モニタリング・カンファレンス・見直しも、定期的・状況に応じて随時実施している。 見直しの際は、NMスケール（精神状態尺度）・長谷川式スケール（知能評価）・ADSL評価（機能的評価）を実施するなど、本人の今に合う計画となるように取り組んでいる。	利用者の重度化が進み、家族の不安も当初よりは増してきているものと思われる。 見直しの際の各種評価を一目でわかるようにグラフ化するなど、見える化することで、職員だけでなく家族にとっても進行状況が分かり易く、計画内容の意味や事業所の努力の理解も更に深まると思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の個別記録を詳細に行うことで、職員間で情報を共有し、介護計画の作成に反映できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	職員を増やしたことにより、突発的な状況や個別のニーズに対応できるように工夫をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の福祉広場に参加したり、ボランティアの方々、幼稚園・中学生との交流を積極的に行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の協力病院はもとより、本人・ご家族の希望があれば、かかりつけの医療機関への付き添いも行っている。	協力病院への受診が主であり、事業所からドクターへ、ドクターから事業所へと、情報提供書がやり取りされるなど、連携が図られている。 また、家族の希望により、眼科医などのかかりつけ医に付き添いもしている。 この健康管理の環境が、利用者・家族の安心感を増すことにも繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設の老健看護師とは連携をとり、異常時や急変時の対応、また状況に応じた適切な指示を受けています。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院とは日々連携をとっており、情報交換を行うことで、ドクターやナースとの協働もできています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りについては話あいを行い、マニュアルが作成されているため対応できるようにしています。	重度化や終末期について、事業所としての細かな方針が決まっている。 そして、職員間で対応についての共有化も成されており、本人・家族の将来的な不安は少なくなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時には併設施設より看護師のサポートは速やかに行われるようになっています。また老健合同で、AEDの勉強会を行ってきました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	老健と合同で行う防災訓練にて、意識を高め、必要な知識を身に付けるようにしています。一部の職員が参加となっているため、GH内ではどう対応するのか等話し合いの場を作れるようにしています。 内田地区とは、防災無線の対象施設に加えさせて頂いています。	介護老人保健施設との合同防災訓練は定期的に行われている。 そんななか、平成26年の大雪による道路網の混乱を教訓として備蓄日数の検討を行い、3日から10日へと大幅に増やしたという。 生命の健康・安全を考慮した上での認知症ケアであるという、事業所の姿勢をここに視ることができる。	夜間・日中など災害は必ず起きると想定して、グループホーム独自の防災対策の計画とその実践が期待される。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳を大切にし、言葉掛けには配慮させて頂いています。面会時には、それぞれの居室でご家族の方とゆっくり話ができるように、また一緒に食事ができるような雰囲気を心掛けています。	一人ひとりに寄り添い、個性を理解した支援が行われている。結果として利用者にとっては共同生活ではあるが、自宅にいる時と同様な自分らしい暮らしが継続し易くなっている。 また、ケアの基本は同性介助であるとともに、各種マニュアルも整備されているので、利用者が戸惑う事を防ぎ、安心できる生活環境といえる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人ひとりに合わせた声かけを行い、ご本人の意見や希望を職員がしっかりと把握できるように対応しています。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様一人ひとりの生活のリズムは違うということを理解し、個別の声かけの中で本人の希望を把握する様に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服はご本人の希望を聞き、好きな洋服を選んで着ていただいています。また、髪型を変えたり、アクセサリーをつけたりしておしゃれを楽しんでいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節の料理やおやつ作りを考え、できることは一緒に手伝って頂きながら、行えるようにしています。	行事食・選択食・ご当地グルメなどを月1回提供したり、時には園庭で食事をしたりと、食を通して楽しみと精神的な安心・安定を利用者に与えている。 また、併設施設の栄養士による栄養管理も施されており、毎週水曜は昼食作り、日曜はおやつ作りと、季節にちなんだ食事作りも提供している。 このことで、利用者は季節感を味わうとともに、自分のできる範囲での役割が楽しみにもなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の量については個人の状態に合わせて対応させて頂いています。水分については摂取していただけるように訴え時の対応等心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に歯磨きを行っています。自分でできる方は本人ですが、できない方についてはできるところまで磨いて頂き、最終確認を職員で行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	個々の排尿量を把握し、個人に合わせたオムツの使用を検討しています。定時のトイレ誘導や、排尿時の訴え等聞き、誘導しています。	共有スペースの廊下にあるトイレとは別に、各居室の入り口に設置されているトイレは羞恥心とともにプライバシーにも配慮したものである。 この事により、利用者は居室（自宅）と共有スペース（社会）との区別を意識・維持できており、混乱を防ぐことにも繋がっている。 トイレ誘導に関しては、日々の摂取量・過去の排尿量を把握しており、適宜、誘導に心掛けている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食生活の中で、カスピ海ヨーグルトを提供したり、水分摂取を促し便秘の予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	利用者の体調や希望により時間帯をあわせています。ゆったりとした入浴ができるよう1対1の入浴を心掛けています。	心地よい入浴時間の提供に努めるとともに、清潔保持にも注力している。そして、場合によっては職員が一緒に入浴するなどの支援もしている。 また、機械浴が必要な利用者に関しては、併設施設での入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	休みたいときには、いつでも休めるように個々のリズムを大切にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤師の指導の下、服薬管理を行っています。薬の内容や副作用等を理解し、個々の服薬支援ができるよう連携を図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	歌・踊り・演奏等様々な老健行事に参加し、楽しみの一つになっています。また散歩に出て、気分転換が図れるように支援させて頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	グループホーム内で定期的な外出を計画しています。季節に合わせたドライブや外食、利用者の意向を聴きながら支援に結び付けています。自宅周辺に行ったり、家族の協力によって、外食、外泊が出来ています。	定期的な外出が計画されており、花見・美術館めぐり・買い物・外食など、利用者が楽しんでいる。 また、利用者の希望を聞き取り、敬老会や地域広場の各種催しにも参加するなどして、立地条件の欠点を補う社会とのつながりの維持に注力している事実が確認できる。	継続的な社会との関係の維持を、今後も期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理ができる方には、本人に管理をお願いしています。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じて、電話のやり取りの支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花を飾ったり、テレビの音量には配慮をしています。 また、昔の音楽を流し、一緒に口ずさみながら、ゆったりとした空間を作るように心掛けています。	利用者がくつろぐ共有空間が広く、絵画や季節感の溢れる花などが飾られ、片隅には新しく仲間入りした愛犬もおり、利用者に安心と落ち着ける空間を提供している。 また、家族との面会も居室だけでなく、ゆっくりと話ができる場所も設置されており、ホームの様子を知ってもらい家族への安心の提供も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合った方同士が自由に過ごせるように、椅子や机を数か所に置いている、また、入居者の方が好きな場所を職員が把握して、誘導する様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使用できる方は、部屋に置いてある方もいらっしゃいます。家族の写真等を飾り本人の居場所となるようにしています。写真やなじみのあるもの等持ってきていただけるようにお願いしています。	各居室は収納ダンスが備え付けられており、すっきりとした空間になっている。また、窓も広く車椅子でも外の景色を楽しむことができ、壁も暖色で利用者にとっては居心地の良いものとなっている。 居室には家族の写真や自分の作品が飾られ、その人らしい暮らしが営まれていると想像する事は容易である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内はスペースが広く、歩行訓練やリハビリテーションを行うことが容易です。車いすが自走できる方には自立できるようなスペースとなっています。見守りを徹底し、安全には最大限の配慮をして生活していただいています。		